令和8年度　　昭島市立武蔵野小学校　　学校経営重点計画（教育推進計画）中間報告

学校教育目標	○しっかり考える子（問題解決力） ○心やさしい子（人間関係形成力） ○つよく元気な子（体力・活力）	ビジョン	【目指す学校像】	○つながりを大切にし、学校・保護者・地域、みんなでつくる笑顔あふれる武蔵野小学校
			【目指す児童・生徒像】	○児童が主体的に自から考え、判断し、行動できる子。相手の気持ちを考え、人とのかかわりを大切にできる子。自分の心と体に関心をもち、自らの心身の健康管理や体力の向上を図れる子。
			【目指す教師像】	○子供たちに身に付けさせるべき知識や技能・態度を確実に定着させ、担任だけでなく、学校全体で子供たちを指導していき、大人も子供もウェルビーイングを目指す。

領域	中期経営目標（3年間）	短期経営目標（1年間）	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	○基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに主体的・対話的で深い学びによる授業改善を目指す。	○身に付けるべき知識や技能・態度や習慣を明確にし、確実に定着させることで、子供たちの学びを支える基盤づくりを行う。	○単元テスト主要4教科平均(知・思)70点以上を目指す。 ○年度末実施の学力調査において目標値に達する結果を残す。	4 全教員が指導改善を図る。 3 80%～100%未満の教員が指導改善を図る。 2 70%～80%未満の教員が指導改善を図る。 1 70%未満の教員が指導改善を図る。	3	4 定期テストの平均が70点を上回っている学級が11学級以上 3 定期テストの平均が70点を上回っている学級が8～10学級以上 2 定期テストの平均が70点を上回っている学級が5～7学級以上 1 定期テストの平均が70点を上回っている学級が4学級以下	3	校内研究推進委員会にて学力テストの結果を分析・共有をし、実態を把握し、取組の方向性を確認。どの学年も基礎基本の定着の必要性が挙げられた。1学期に取り組んだ算数のワークテスト（知識・技能）の全学年のテスト結果の集計を行い、平均点±80点。さらなる改善策の検討と実践を再度検討している。	成果と課題を検討を進めて行く。また授業改善に向けた教員間の授業参観及びミニ協議会の実施。若手教員を中心としたOJT研修の充実を図り、学習面と生活面の両輪を回し、目標達成に迫っていく。
		○タブレットの入れ替えを受け、ICTを活用した授業を充実させ、児童の「情報活用能力」の育成を図る。	○各学年で昭島市から示されている「子供たちに身に付けさせたいICT操作能力」を把握し、資質能力の育成を目指す。	4 全教員が教員が身に付けさせるICT操作能力を把握し、指導している。 3 80%～100%未満の教員が身に付けさせるICT操作能力を把握し、指導している。 2 70%～80%未満の教員が身に付けさせるICT操作能力を把握し、指導している。 1 70%未満の教員が身に付けさせるICT操作能力を把握し、指導している。	3	4 90%以上の児童がICT操作能力を身に付けている。 3 80%～90%未満の児童がICT操作能力を身に付けている。 2 70%～80%未満の児童がICT操作能力を身に付けている。 1 70%未満の児童がICT操作能力を身に付けている。	3	タブレットの管理方法を見直し、学習での活用のために、今年度は全学年で学校保管にした。このことで各学年でタブレットを活用した学習が行われつつあるが、今年度からソフトウェアが入れ替わったため、ICT操作能力を具体化できていない。	市の指針に沿って各学年で身に付けさせたいICT操作能力と情報セキュリティ能力を具体化し、学習の目的に応じて意識的に活用できるようにしていく。
		○教科担任制の実施や専科教員との連携を図った指導及び、教員間の相互研鑽の充実を図り学校全体で子供たちを指導していく環境づくりを行う。	○教科担任制や授業交換を実施。また、定期的に教員間の相互研鑽に励む。	4 全学年で授業交換等を実施、月3回以上相互研鑽の場を設定する。 3 全学年で授業交換等を実施、月2回程度相互研鑽の場を設定する。 2 全学年で授業交換等を実施、月1回程度相互研鑽の場を設定する。 1 全学年で授業交換等を実施、学期1回程度相互研鑽の場を設定する。	4	4 全学年で授業交換等を実施、月3回以上相互研鑽を行った。 3 全学年で授業交換等を実施、月2回程度、相互研鑽を行った。 2 全学年で授業交換等を実施、月1回程度、相互研鑽を行った。 1 全学年で授業交換等を実施、学期1回程度、相互研鑽を行った。	4	教科担任制の取り組み方や必要性等に関する教員の実態調査及び検討会議を実施。どの教員も教科担任制に対する必要性や成果を感じている一方で、改善の必要性や行い方の工夫を投げ掛ける意見（教科指導経験のスキルに偏りが生まれたり、教科による時数調整が難しかったりする意見など）も見られた。今後は令和10年度の本格実施に向けて研修も盛り込み、成果と課題を見直しながら実施に応じた行い方をしていきたい。	成果としてあげられている内容については引き続き実施していく。課題として上がった内容については主任会議や運営委員会等で様々な意見を集め、今後の取り組み方に生かしていく。
豊かな心	○相手の気持ちを想像し、人との関わりを大切にできる豊かな心を育成する。	○児童の自己肯定感を高め、常に相手のことを考え行動することができるようにする。	○学級の実態に応じた指導し、HQU調査を年2回実施し、結果を分析する。	4 全教員による分析と共有の場を設定する。 3 低中高学年による分析と共有の場を設定する。 2 学年間による分析と共有の場を設定する。 1 学級内での分析と共有の場を設定する。	3	4 2回目の結果で12学級以上で学級満足群の向上がみられる。 3 2回目の結果で9～11学級で学級満足群の向上がみられる。 2 2回目の結果で6～8学級で学級満足群の向上がみられる。 1 2回目の結果で5学級以下で学級満足群の向上がみられる。	3	ハイパーQUを活用して児童の学校生活や学級への適応状況を把握した。学級満足群については、概ね目標とする数値に達しており、学級づくりや児童同士の関わりで一定の成果が見られた。一方で、非認知群や要支援群に該当する児童も見られることから、今後も一人一人の状況を丁寧に把握し、継続して支援していく必要がある。	特に要支援群の児童については、日常の様子や人間関係を丁寧に見取り、必要に応じて個別の支援や声掛けを行う。そして、児童の自己肯定感のさらなる向上につなげていく。
		○特別活動の児童会活動やたてわり班活動等の異学年交流を通して、自己有用感を高める活動を行う。	○児童主体の活動を行えるよう児童会活動の充実を図ったり、たてわり班での学年交流の充実を図ったりする。	4 たてわり班活動の実施や、中央委員会を主とし、児童主体の活動をすべての委員会が実施する。 3 たてわり班活動の実施や児童主体の活動を計画に対して70%程度、実施する。 2 たてわり班活動の実施や児童主体の活動を計画に対して50%程度、実施する。 1 たてわり班活動の実施や児童主体の活動を計画に対して50%未満、実施する。	3	4 たてわり班活動の実施と、中央委員会を主とし、児童主体の活動をすべての委員会が実施した。 3 たてわり班活動の実施や児童主体の活動を計画に対して70%程度、実施した。 2 たてわり班活動の実施や児童主体の活動を計画に対して50%程度、実施した。 1 たてわり班活動の実施や児童主体の活動を計画に対して50%未満、実施した。	3	今年度のたてわり班活動では、児童の自己有用感を高めるために児童同士のつながりが深まるよう新たな取り組みを実施。まずは、児童同士が名前で呼び合えるよう学年カラー画用紙に名前の書いた腕章を作成し、日々の活動でつけるようにしている。	今後は、できる限り決まった場所でまとまって遊べる活動を取り入れて常に目や声が行き届くようにし、他学年同士の交流が生まれるような遊びにするよう活動内容も工夫していきたい。
		○委員会活動や学級活動、行事などの中で児童が主体となる環境づくりを設定する。	○行事での実行委員会の設定や委員会活動での自発的な活動、学級での係活動等、児童主体的な活動を実施する。	4 全教員が児童の主体性を生かした学習を行った 3 80%～100%未満の教員が児童の主体性を生かした学習を行った 2 70%～80%未満の教員が児童の主体性を生かした学習を行った 1 70%未満の教員が児童の主体性を生かした学習を行った	4	4 全教員が児童の主体性を生かした学習を行った 3 80%～100%未満の教員が児童の主体性を生かした学習を行った 2 70%～80%未満の教員が児童の主体性を生かした学習を行った 1 70%未満の教員が児童の主体性を生かした学習を行った	4	委員会活動では、児童会や中央委員会を中心に、学校行事に向けた取り組みを児童が中心となって考え実行している。また、4～6年生では、学校行事ごとに実行委員会を設立し、児童が主体的に行事に取り組むことができるように指導している。	中央委員会の活動を通して各委員会での取り組みが独立した取り組みにならないよう、横のつながりをつくり、活動ごとに振り返り、次の行事や来年度に生かせるようにしていく。
健やかな体	○自分の心と体の健康に関心をもち、基礎的な体力と心身の育成と向上を図る。	○児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	○体力向上プロジェクトや短なわや長なわの取組を実施し、運動することの楽しさやよさを味わわせる。	4 全教員が計画を活用した指導を行った 3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った 2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った 1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った	3	4 体力テスト結果が都平均ポイントから＋2ポイント以上 3 体力テスト結果が都平均比0～+2ポイント 2 体力テスト結果が都平均比-2ポイント以内 1 体力テスト結果が都平均比-2ポイント以下	3	体力向上プロジェクトとして、運動委員会の児童を中心に休み時間を活用して体力テストにつながる運動の取組を実施。良い点（学校の強み）としては、「長座体前屈」「反復横跳び」である。全学年・男女ともに全国平均同等もしくは上回っている。課題点としては3つある。①全学年共通「投力不足」②学年が上がるにつれた「瞬発力」「立ち幅跳び」の低下③低学年の握力の低さである。以上のことから全国平均と比較しても大幅な大差はないが学校としての課題は明確である。	運動委員会として休み時間の体力づくりの環境整備をしたり、低学年では休み時間や体育の時間を活用して遊具で「握る」動作の活動ができるようにしたいと考える。
		○規則正しい生活と健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	○毎学期実施する「すまいるカード」の取組の結果を集計し、その結果を集計・分析し、日々の指導改善に努める。	4 全教員が計画的な指導を実施した 3 80%から100%未満の教員が計画的に指導した 2 70%から80%の教員が計画的に指導した 1 70%未満の教員が計画的に指導した	3	4 40%以上の児童がすまいるカードの取組目標を達成している 3 30%～40%未満の児童がすまいるカードの取組目標を達成している 2 20%～30%未満の児童がすまいるカードの取組目標を達成している 1 20%未満の児童がすまいるカードの取組目標を達成している	4	年間3回生活習慣カードに取り組んでいる。提出率は1学期は93%であり、平日4回以上グッモーニング60分ができた児童は61%だった。第一回の配布時に教員で効果的な取り組み方についてミニ研修を行った。また、元気アップ委員会で作成したグッドモーニング60分の資料動画を生活習慣カードの取り組み期間中、学級で視聴した。2学期は、養護教諭による保健指導を全学級で行い、取り組みの内容を家庭に保健便りで知らせている。	3学期も全学年生活習慣カード期間中は、毎日記録毎日担任に提出し、全校での取り組みを徹底する。GM60の取り組みをさっかけとし、早起きの良さ、生活習慣の改善、排便習慣の重要性を児童や保護者に発信していく。2学期の結果を検証し、課題を分析していく。また、元気アップの活動を取り入れたい。
		○いじめを許さない心情を育て、いじめの早期発見解決に努める。	○年3回の学校生活アンケートからみんながよりよく生活できるために関するアンケート項目を設定し、実施する。	4 全教員がいじめの定義に対する共通理解に関する項目を理解し指導を行った。 3 80%～100%未満の教員がいじめの定義に対する共通理解に関する項目を理解し指導を行った。 2 70%～80%未満の教員がいじめの定義に対する共通理解に関する項目を理解し指導を行った。 1 70%未満の教員がいじめの定義に対する共通理解に関する項目を理解し指導を行った。	4	4 学校生活アンケート調査の関連項目から90%以上 3 学校生活アンケート調査の関連項目から70%以上 2 学校生活アンケート調査の関連項目から50%以上 1 学校生活アンケート調査の関連項目から30%以上	4	年間3回のふれあい月間を通して、いじめ総合対策こども版の事例をもとに教職員に対して研修を行っている。また、児童に対して分かりやすくいじめが理解できるリーフレットを活用して、いじめ自体が決して許されないことであることを指導してきた。	今年度、本校では重大案件につながらないじめが少なく、落ち着いた状況が続いている。しかし、ややもすると深刻な事案につながりかねない事例も見受けられるため継続して、予防と即時発見、即時組織的解決を心掛けていく。（法令上と社会通念上のすみわけを明確にし、いじめゼロを目指していく。）
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	○幼保小中連携教育の推進を図るとともに、学年始めに「キャリアルバム」を作成し、目標をもって生活を送れるようにする。	4 全教員が方策を実施した 3 80%～100%未満の教員が方策を実施した 2 70%～80%未満の教員が方策を実施した 1 70%未満の教員が方策を実施した	4	4 90%以上の児童がキャリアルバムを書き、成長の記録を残した。 3 80%～90%未満の児童がキャリアルバムを書き、成長の記録を残した。 2 70%～80%未満の児童がキャリアルバムを書き、成長の記録を残した。 1 70%未満の児童がキャリアルバムを書き、成長の記録を残した。	4	学年始めに子供たちが安心して進級・進学できるよう「キャリアルバム」を活用し、これまでの学びや成長を振り返る機会を設けることができた。これらの取組を通して、子供たちが見通しや目標をもって学校生活を送ることにつながっており、現時点でおおむね目標を達成することができている。	今後も、幼保小中の連携を継続し、子供たちの成長や学びに関する情報共有をより充実させていく。また、「キャリアルバム」を活用して、子供たちがこれまでの成長を振り返り、進級・進学への見通しや目標をもつことができるよう、取組の充実を図っていく。
		○教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	○文化、スポーツ、高齢者、外国人、地域工場・店舗等での学びの場を各学年設定する。	4 全学年で、外部人材を活用した授業や交流体験を実施した 3 80%～100%未満の学年で外部人材を活用した授業や交流体験を実施した。 2 70%～80%未満の学年外部人材を活用した授業や交流体験を実施した。 1 70%未満の学年外部人材を活用した授業や交流体験を実施した。	3	4 全学年で外部人材を活用した授業を行った。 3 9学級以上で外部人材を活用した授業を行った。 2 6学級以上で外部人材を活用した授業を行った。 1 4学級以上で外部人材を活用した授業を行った。	3	各学年の学習内容や教育活動に応じて外部人材を活用す。3年生では地域との交流、4年生では社会科の学習に関連した授業、5年生では移動教室に関連した授業を実施し、専門的な知識や地域の方々との関わりを通して、児童の学びを深めることができた。現時点で、概ね計画通りに取組を進めることができている。	今後も、各学年の学習内容や教育活動に関連した外部人材を積極的に活用し、児童が実際の体験や専門的な知識に触れる機会を充実させていく。また、外部人材との関わりを一時的な体験で終わらせず、日頃の学習やその後の学びにつなげられるよう、授業との関連を意識して活用していく。
働き方改革	○職員の心身の健康と業務の効率化を図り、働きやすく、協働できるできる職場環境を構築する。	○タイムマネジメントを意識した働き方改革を促し勤務時間削減を推進する。	○会議や分掌業務の効率化を図るためDX化などを分掌ごとに工夫した取組をする。	4 全教員が自己の時間外勤務時間を意識して職務にあたった。 3 80%～100%未満の教員が自己の時間外勤務時間を意識して職務にあたった。 2 70%～80%未満の教員が自己の時間外勤務時間を意識して職務にあたった。 1 70%未満の教員が自己の時間外勤務時間を意識して職務にあたった。	3	4 全教職員が時間外勤務時間45時間以下の人数が100% 3 全教職員が時間外勤務時間45時間以下の人数が80%以下 2 全教職員が時間外勤務時間45時間以下の人数が60%以下 1 全教職員が時間外勤務時間45時間以下の人数が20%以下	3	会議や分掌のDXによる効率化を図るため1学期に学校評価（校内教職員対象）で校務や分掌、組織や会議のもち方、職員室環境等に関する意見を集めた。夏休み期間中に意見を集約し2学期始めより改善可能な所から新たな取り組みを進めている。	今後は、2学期に実施する行事の取り組み方に対する見直しをし、1学期の学校評価をもとに2学期末にも学校評価を実施し、多くの意見を取り入れて次年度につなげていきたい。特に、6月、11月の定時退勤月間では、残業ゼロを目指す。